

福井の幕末明治 歴史秘話

<第15号>

幕末福井が舞台となった水戸天狗党事件(前編)

平成28年8月17日発行

～小藩、大野藩の窮余の一策

由利公正が挙藩上洛計画の責めを受け、藩から幽閉整居の処分を受けていた1864年(元治元年)、福井では全国を揺るがした大事件がクライマックスを迎えます。いわゆる水戸天狗党事件です。

幕末の水戸藩では、藩の実権を巡り、保守派と尊王攘夷を強硬に主張し藩政をリードしようとする改革派(天狗党)に分かれ、激しく対立していました。



「水戸天狗党の西上行程」 「図説 福井県史」より

松平春嶽は、明治になって記した回顧録「逸事史補(いつじしほ)」の中で、「この両党(派)の争いの起源は、実は水戸斉昭卿の大失策である。大不徳である。」として、対立の責任は水戸藩主であった**徳川斉昭**にあったと記しています。改革派を重用し、ことさら保守派を退けたため、保守派が天狗党に対する憎悪を深めたというものです。

両派の対立が深刻化する中、1864年3月、ついに天狗党の首領格、**藤田小四郎**(尊王攘夷思想に影響を与えた水戸藩士**藤田東湖**の子)が、保守派の一掃と横浜港鎖港を実現しようと筑波山で挙兵しました。

この時は鎮圧されましたが、その後、天狗党一行は、同年11月1日、改革派の重臣、**武田耕雲斎**を将に立てて再び挙兵。当時、横浜港鎖港を主張していた禁裏御守衛総督、**一橋慶喜**(斉昭の子)を頼って西上を開始します。幕府は一行を「浮浪之徒」とし、諸藩に追討令を発したため、先々で行く手を阻まれましたが、行路を変更しながら西上を続けます。その途中、美濃国で進路を北に変え、12月4日、蠅帽子峠を越えて越前国に入りました。

領内に天狗党を迎えた大野藩は、軍事惣督**内山隆佐**を亡くしたばかりの時期で、藩主、**土井利恒**も江戸在役中であったため、重臣が合議、対応を図ります。天狗党が速やかに領内を通過するよう、大野藩は、一行が通行する道筋に当たる五村二百軒を超える民家を焼き払うという焼土作戦を取ります。(一部の村の焼打ちは手違いで天狗党の通過後に行われ、村人の怒りを買いました。)当時、福井の諸藩は、幕府の命で第一次長州征伐や京都の警護に多数の兵を出しており、大野藩が割ける戦力はわずか二百人程度でした。焼打ちは、戦わずして千人近い天狗党を領内から追い払おうとする小藩、大野藩が取った窮余の一策でしたが、この策で多くの民衆が家を失ったのです。

(第16号に続く)

～幕末ふくい歴史紀行～ [越前大野城]

・織田信長の武將金森長近が築城した越前大野城は、天正4年から4年の歳月を要して完成しました。その後、大野藩主土井氏の居城となります。完成当時の大野城は、2層3階建ての大天守、2層2階の小天守、二の丸、三の丸があり、外堀・内堀をめぐらしていました。現在の城は、昭和43年に再建されたもので、城内には歴代城主の遺品等が展示されています。近年は雲海に浮かぶ“天空の城”としても人気を集めています。(JR越前大野駅から徒歩30分/北陸自動車道福井ICから車で30分)



現在の越前大野城
(福井県大野市)

★お知らせ 西武福井店で「福井の幕末明治 先人の軌跡展」を開催しています!

- ・期間...平成28年8月11日(木・祝)～8月21日(日)10:00～19:30(8/19(金)のみ 10:00～20:00)
- ・場所...西武福井店 5階 連絡通路(スカイアーチ)
- ・後藤象二郎宛て坂本龍馬書簡をはじめとする由利公正関連の資料、各偉人の功績を紹介するパネル展示等

(発行者)福井県 (問合せ先)福井県観光営業部ブランド営業課 萩原、前田 ☎ 0776-20-0762